366日の昔話
にち　あかしばなし
ふく　むすめ　どう　わ　しゅう
福娘童話集

ツルのおんがえし
福娘童話集　きょうの日本昔ばなし

ツルのおんがえし　QRコード

おなまえ

福娘童話集　豆本シリーズ 11

福娘の携帯向けサイト

・福娘童話集
（世界の日本の昔話）
・366日への旅
（誕生日・誕生花・誕生日）
・こどもの熊気相談所
（こどもの熊気検査・対応など）
・世界60秒めくり
（世界の国々の空撮）

QRコード

http://hukumusume.com

おがしまだが、ますいけれど、こどものやさしいおじいさんと、おばあさんが いました。あるばんの日、おじいさんは 町へ たきぎを いこに 出かけました。

すると、とちゅうの 田んぼの 中で、一わの ツルが、ワナに かかって もがいていました。

おじいさんは、かわいそうにおもって、ツルの とめをとって にがしてやりました。

ツルは おじいさんの あたまの 上を 三べん まわって、カワ、カワ、カワと、うれしそうに ないて、どんどん とんでいきました。

そのよる、日くれごろから ふぶきはじめたは ぎが、コンコンと つもって おそのやきになりました。

おじいさんが おばあさんに、ツルを たすけたはなしを こしていると、いえの とを、トント ン、トントンと、ただく 音が します。

「ごめんください。あけてください まし」

わかい 女の 人の こえです。

おばあさんが とを あけると、あたまから ゆきを かぶった おすずが 立っていました。

おばあさんは おどろいて、

「まあ、まあ、さむかったでしょう。さあ、早くおはいり」

と、おすずを いえに 入れました。

「わたしは、このあたりに 人を たずねて きましたが、どこを さがしても 見あたらず、ゆきは ふるし、日は くれるし、やっとの ことで、ここまで まいりました。どうか ひとばん、とめてください まし」

おすずは、ていねいに 手を ついて たのみました。

「それは それは おこまりじゃろう。こんなところでよかったら、どうぞ、おとまりなさい」

おじいさんが いいました。

おすずは よろこんで、とのばんは じぞうの ひとだいなどこで、はだかで やすみました。

あくるあさ、おばあさんが 目を さますと、おすずは もう おきて、はたらいていました。いろりに ひが もえ、なべからは ゆげが あがっています。

「まあまあ、おそくまで しごとをしてくれたのかな」

おばあさんも おじいさんも、おどろきました。

つぎの日も、そのつぎの日も おおゆきで、とめ あげることも できません。

おすずは、おじいさんの だんな もとで くらしました。

「なんと よくはたらく おすずさんじゃ。なんと よく気のつく やさしい おすずさんじゃ。こんなおすずが いちにち いてくれたら、どんなに うれしいじゃろう」

おじいさんと おばあさんは、だんな 見あわせました。

すると、おすずが たのみました。

「おてらの なかの おすずです。どうか、このいえに おいとぐ ださいませ」

おじいさんと おばあさんは よろこんで、それから 3人、まずしいけれど、たのしく くらしました。

ある日のこと、おすずが はたを おりたいから 糸を かってくださいと たのみました。

「はたを おりあげるまで、だれも のぞかないでください」

と、いって、はたを おりはじめました。

キコバタトン、キコバタトン、おすずが はたを おって 3日たちました。

「おじいさま、おばあさま、このあやにしきの ものごとを 町へ 売りに いって、かえりに なれば、糸を かって来てください ませ」

おすずが 出ぬ くものを ひとつ、かるい、ひとつ くい おりものを ふたりに 見せました。

おじいさんが 町へ 売りに いくと、それを とりあって たがいに ねだんを かって くれました。

おじいさんは、大よろこび。

「ありがとう。ありがとう。ありがとう。」

と、何度も 何度も 頭を 下げて、帰って ゆきました。

「おすずは、いったい、何者だ。」

と、ふしぎに 思った おじいさんは、ある日、こっそり おすずの あとを つけて みました。

すると、おすずは、ゆきの 中を、ずんずん 歩いて、ある 山の 中に 入って いきました。

そして、ある 大きな 松の 木の 下に、ぺたり、と、すわって、ぱたり、ぱたり、と、ぬけがら の 羽を 一まい 一まい、ぬいで、ていねいに、たたんで、ふくろに 入れました。

すると、ふしぎ、ふしぎ、おすずは、一わの 美しい 白 ツルに、すがた を かえて、空 高く、とび さって、ゆきの 中 へ、消えて、見えなくなって しまいました。

「おすずは、ツルの 化 身 だ。」

と、おじいさんは、ぶるぶる ふるえて、家に かえって、ねこの ように、ちぢこまって、ねこの ように、ぶるぶる ふるえて、ねこの ように、ぶるぶる ふるえて、ねこの ように、ぶるぶる ふるえて